

今日のキーワード 米「大統領選挙」戦の現状は？（米国）

11月8日に予定されている米大統領選挙の正式候補として、民主党はヒラリー・クリントン氏、共和党はドナルド・トランプ氏を指名しました。副大統領候補として、クリントン氏はバージニア州選出のティム・ケイン上院議員、トランプ氏はインディアナ州のマイク・ペンス知事を指名。今後、9月下旬から10月中旬までに予定されている計3回の大統領候補討論会、1回の副大統領候補討論会を経て、11月8日に大統領選挙を迎えます。

ポイント1

党大会後の世論調査では、クリントン氏がリード 共和党大会直後にトランプ氏がリードするが、すぐに逆転

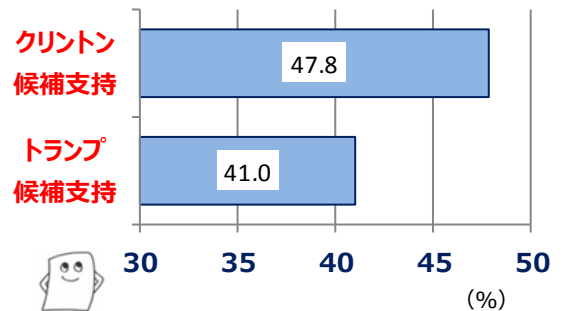
- トランプ候補の支持率は、共和党の全国党大会（7月18日～21日）終了直後に、クリントン候補を上回りましたが、民主党全国大会（7月25日～28日）終了後に早くも逆転されてしまいました。
- 調査会社RealClear Politics社によれば、直近の支持率はクリントン氏が47.8%、トランプ氏が41.0%と、クリントン氏が7ポイント近くリードしています。

ポイント2

両候補とも好感度は低い クリントン氏は私用メール問題がネック

- トランプ氏は、隣国メキシコに対する差別的な発言や、最近では「オバマ大統領が過激派組織イラク・シリア・イスラム国（ISIS）の創設者」と述べるなど、問題発言を繰り返していますが、クリントン氏も国務長官時代の私用電子メール問題を指摘されており、好感度はさほど高いとは言えません。
- 調査会社のギャロップ社が今年6月に行った調査では、全体の25%がクリントン、トランプ両氏とも好ましくないと回答しています。前回2012年の大統領選の候補者は民主党がオバマ氏、共和党がロムニー氏でしたが、この時の同調査では両候補者とも好ましくないと回答したのは全体の11%でした。

大統領候補の支持率



(注) 8月1日から8月12日の期間に実施された各種世論調査（クリントン候補とトランプ候補のどちらを支持するか）の結果を平均したものです。

(出所) 政治関連の報道および世論調査会社RealClear Politicsのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

現状ではクリントン氏優勢だが、議会運営には困難が伴う見通し

- 今後、大統領候補による討論会が9月26日、10月9日、10月19日の計3回、また10月4日には副大統領候補による討論会が行われる予定です。そして11月8日に、いよいよ本番の大統領選挙を迎えます。
- 足元の支持率から判断する限り、大統領選挙はクリントン氏が勝利しそうです。ただし、同時に実施される議会選挙での、下院の共和党優勢は崩れそうにありません。クリントン氏が大統領に就任しても、議会の運営には困難が伴うと予想されます。

ここもチェック!

2016年8月8日 米国の雇用統計（2016年7月）
2016年8月4日 米国の債券市場（2016年8月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。